

## 平成30年 第19回帯広市教育委員会会議録

1. 平成30年12月27日 木曜日 17時 ～ 18時

帯広市教育委員会会議を帯広市役所 教育委員会室に招集する。

2. 本日の出席委員

教 育 長	嶋 崎 隆 則
教 育 委 員	田 中 厚 一
教 育 委 員	藤 澤 郁 美
教 育 委 員	佐々木 しゅり
教 育 委 員	塩野谷 和 男

3. 本日の議事日程

日程第 1 会議録署名委員の指名について

日程第 2 議案第 46 号 帯広市小、中学校通学区域規則の一部改正について

日程第 3 報告第 28 号 (仮称) 第二期帯広市教育基本計画に関する提言書 (学校教育分野) について

報告第 29 号 (仮称) 第二期帯広市教育基本計画に関する提言書 (社会教育分野) について

日程第 4 その他 (1) 帯広市議会 12 月定例会の報告について

その他 (2) 教育懇談会の概要報告について

その他 (3) 今後の事業予定について

その他 (4) 寄附受納について

その他

日程第 5 報告第 30 号 平成 30 年度とかちジュニア文芸各賞の決定について 【非公開】

嶋崎教育長

ただいまから、平成30年第19回帯広市教育委員会会議を開  
会いたします。

出席委員は全員であります。

会議は成立しております。

ここで諸般の報告をいたします。

(佐藤企画総務課長 報告)

日程第1、会議録署名委員の指名を行います。

会議録署名委員は、藤澤委員及び佐々木委員を指名いたします。

日程第2、議案第46号、帯広市小、中学校通学区域規則の一部  
改正についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

中野 部長

議案第46号、帯広市小、中学校通学区域規則の一部改正につ  
いてご説明いたします。議案書1ページをご覧ください。本案は小学  
校と中学校の通学区域が異なることにより、一部の少数の児童が異  
なる中学校へ進学する地域の解消を図るため、帯広市小、中学校通  
学区域規則を一部改正しようとするものでございます。4ページの  
図面をご覧いただきたいと思います。変更箇所は花園小学校の通学  
区域のうち、南町中学校の通学区域に属する地域であり、これを帯  
広第四中学校に変更しようとするものでございます。また、今回の  
改正に併せまして、規則の題名について、所要の整理を行うもので  
ございます。以上よろしくご審議いただきますようお願いいたしま  
す。

嶋崎教育長  
各 委 員  
嶋崎教育長

これから質疑に入ります。

ありません。

別になければ、質疑を終結します。

お諮りいたします。

議案第46号、帯広市小、中学校通学区域規則の一部改正につ  
いては、原案のとおり決定することに、ご異議ありませんか。

各 委 員  
嶋崎教育長

異議なし。

ご異議なしと認め、議案第46号は決定されました。

日程第3、報告第28号、(仮称)第二期帯広市教育基本計画に関  
する提言書(学校教育分野)について及び報告第29号、(仮称)第  
二期帯広市教育基本計画に関する提言書(社会教育分野)につ  
いてを一括して議題といたします。

直ちに説明を求めます。

中野 部長

それでは、報告第28号、(仮称)第二期帯広市教育基本計画に関  
する提言書(学校教育分野)についてご報告いたします。議案書5  
ページをご覧ください。本提言書は2020年度から10年間の計  
画期間となります、次期の帯広市教育基本計画策定にあたり、幅  
広く市民意見を聴取するため、本年6月に(仮称)第二期帯広市教育基

本計画市民検討委員会を設置し、提言を依頼したものでございます。市民検討委員会は、学識経験者、学校関係者、PTAをはじめ、農業、商業、一般公募など幅広い分野から15名の方々に構成され、7月から11月にわたり計5回の協議をいただき、検討委員会として、まとめた提言書を去る12月19日に教育長に提出いただいたものでございます。それでは、提言書の内容についてご説明いたします。はじめに議案書9ページの目次をご覧ください。提言書は、1. 教育を取り巻く環境についてから、3. 施策の方向性についてまでの3章立てで構成されています。次に10ページ、1. 教育を取り巻く環境については、家庭や学校、地域産業など、時代の流れとともに社会全体が変化してきている現状について記載をさせていただきます。続きまして、11ページ、2. 帯広市が目指すべき今後の教育のあり方については、(仮称)第二期帯広市教育基本計画策定方針における計画策定の3つの視点から、今後の教育のあり方について記載をさせていただきます。続きまして、12ページ、3. 施策の方向性については、現行の帯広市教育基本計画の体系に沿って、現状と課題、今後の方向性などについて検討が行われ、現計画における、個別目標ごとに全10項目に沿って意見がまとめられております。全体的な内容につきましては、ICTの有効活用、新学習指導要領にもとづく効果的な授業づくり、教職員の長時間勤務の解消などについて記載をさせていただきます。この中でも特にコミュニティ・スクールと小中一貫教育につきましては、これからの教育施策を考える上で議論を深める必要があるということで、重点検討項目として検証が行われております。(6) 学校・家庭・地域の連携では、コミュニティ・スクールに関して、これからの教育においては、学校・家庭・地域が連携・協働し、地域全体で子どもを育てることがより重要になってくるという観点から、コミュニティ・スクールの導入を進める必要があると記載されております。また、17ページ、(10) よりよい教育のためのしくみづくりでは、小中一貫教育に関して、学力の向上や中学校に進学する上での段差の解消などについても期待できることから、小中一貫教育の導入を進める必要があると記載されております。最後に19ページ以降の参考資料には、設置要綱、委員名簿、開催状況等が記載されています。提言書の説明は以上でございますが、今後、本提言書を踏まえまして、教育委員会として、来年度末までに次期計画を策定すべく作業を進めてまいります。また、作業を進めるにあたりましては、教育委員会会議に適宜ご報告してまいります。学校教育分野については以上でございます。

草森 部長

続きまして、報告第29号、(仮称)第二期帯広市教育基本計画に関する提言書(社会教育分野)についてご報告いたします。議案書

25ページをご覧ください。提言書の取りまとめにあたりましては、帯広市社会教育委員会議におきまして、今年の2月から11月にかけて計6回にわたり議論を重ねていただきました。その後、12月20日に松本社会教育委員長から、嶋崎教育長へ提言書が提出されましたのでご報告するものであります。提言書の概要についてご説明いたします。27ページの目次をご覧ください。提言書は、1. 現状と課題、2. 社会教育に求められる役割について、3. 施策の方向性についての3章で構成されております。はじめに28ページ、1. 現状と課題では、社会情勢を踏まえた現状の変化や現行計画の取り組みの課題について記述されています。次に32ページ、2. 社会教育に求められる役割についてでは、前章での現状と課題を踏まえ、今後10年間に期待される社会教育の役割について記述されております。最後に34ページ、3. 施策の方向性についてでは、前章で整理された社会教育に求められる役割を具体化するため、次期帯広市教育基本計画の取り組みの方向性について記述されています。なお、参考資料として、委員名簿、議論経過が記載されております。本提言書を踏まえまして、次期帯広市教育基本計画策定に向け、学校教育部を始めとする関係部署と連携しながら作業を進めてまいりたいと考えております。説明は以上でございます。

嶋崎教育長  
藤澤 委員

これから質疑に入ります。

以前にも説明があったのかもしれませんが、平成32年度から始まるということで、今後のタイムスケジュールについて教えていただきたいと思っております。

佐藤 課長

今回、提言書を提出していただきまして、今年度は次期計画の全体像、また、体系などについての検討を両部で進めていき、次年度から詳細な内容について検討を進めていきたいと考えてございます。来年度には、所管委員会の建設文教委員会への報告、市民意見交換会、パブリックコメントの実施を経まして、平成31年度末の教育委員会会議において計画決定することを予定してございます。また、進めるにあたりましては、適宜、課題研究協議会や教育委員会会議で報告させていただきたいと考えてございます。以上です。

藤澤 委員  
田中 委員

ありがとうございます。

学校教育分野と社会教育分野に分けた提言書を読ませていただきまして、安定した、しっかりした提言書になっていると思えました。何点かお伺いしたいと思っておりますが、学校教育分野に関しては、ほとんどおっしゃるとおりだと思いますが、12ページ、職場体験などの時代の変化に対応できる職業教育という言葉が出てきています。この職業教育に関しては、従来から相当な議論があったかと思っておりますが、この会議の中ではどのような議論がされたのか、AIなどの最新技術を取り入れた職場体験というのは、どのようなことをイメ

ージされて、議論が進んだのか教えていただきたいと思います。それから、13ページ、プログラミング教育とあります。我々が昔インベーダーゲームをやっていましたが、それが今や小学生のプログラミング教育に使われているという議論があったように思いますが、そういうことを踏まえて提言されているのか、教えていただきたいと思います。それから社会教育分野について、従来の社会教育委員会での議論に比べ、全体像を把握された形でいろいろと議論が進められていることに関して、松本委員長を始め、生涯学習分野の皆さんには敬意を表したいと思います。36ページ、特に要はふるさと教育だと思っております。ふるさとはその立ち位置に応じて、これを知らないとかだめだということが全然違うわけです。依田勉三を知らなければいけないと言う人が、実は中城ふみ子のことは全然知らないなど、各分野で全く違うということがあります。ふるさと教育について、具体的な中身のイメージがずれたままで動いている可能性があると思いますが、社会教育委員会会議の中では、どのような議論があったのか教えていただきたいと思います。

佐藤 課長

まず、学校教育分野の職場体験の議論では、委員の方が商業関係に従事されており、ご本人がお勤めされている中で、実際にAIを使う頻度が増えてきていることもあり、今の子どもたちが大人になる頃には、さらにそういう状況が加速されるだろうということで、その点について、しっかり取り組んではどうかというご意見でございました。

村松 部長

プログラミング教育の議論の中では、新しい学習指導要領の中で、小学校段階でプログラミング教育が導入されることで、委員からどのような形で実際に行われているのかという議論が最初のスタートでした。実際にコンピュータを使うものであったり、理論的に考えるものであったり、教科を通してとか、教科以外の部分でのプログラミング教育が実際に平成32年度から始まるため、研修もスタートしている旨のお話をした中で議論がなされ、プログラミング教育は必要性が高いということで、このような形で提言の中にまとめられたものでございます。

中小原課長

生涯学習分野のふるさと教育につきましては、会議の中では、田中委員のおっしゃったような、立場に応じた分野ごとの違いといった、詳しいところにはまでは触れられてはおりません。地域特性を生かして、帯広らしい生涯学習を展開するためには、地域の理解が欠かせないというご意見でございました。

田中 委員  
塩野谷委員

わかりました。

両分野において様々な提言があり、かなり網羅されていると思いますが、これからの基本計画の策定にあたり、提言書を基に計画が作られるのだと思います。そこでお聞きしたいことがあります。学

校教育分野については、教育基本法や新学習指導要領があって、それに沿った形で作られるのだと思いますが、社会教育分野については、そういった指針のようなものがあるのか、帯広市独自で提言に基づいて作られるのか教えていただきたいと思います。

中小原課長

社会教育分野につきましては、国の計画の中でも、教育施策の重点事項として、人生100年時代を豊かに生き、誰もが活躍できる社会の実現をめざすなどの計画が持たれております。道の計画でも、学びを生かし、将来にわたって学習活動を推進することをめざしておりますので、それを基に議論をされております。

塩野谷委員

そういった方針があって、ある程度それに沿って作られているということですね。

嶋崎教育長

ベースがあって、本市としての地域特性や力を入れていきたいところなどを議論していただいたということです。

草森 部長

補足しますと、議論の前段に国等の流れの資料をご提供させていただいて、情報共有を図った上で議論を進めていただいた経過がございます。

塩野谷委員

その上で提言書をまとめられたということで、反映されているわけですね。わかりました。

藤澤 委員

提言書の中に重点検討項目として、小中一貫教育とコミュニティ・スクールについてありますが、前回もあったのか、今回特に設けたのでしょうか。

佐藤 課長

現計画には小中一貫教育、コミュニティ・スクールの内容の記載はございませんが、計画が平成22年に策定されて以来、全国的な大きな流れの中で、学校・家庭・地域の連携が以前にも増して重視されてきたこともございまして、帯広市教育委員会としても、今後の方向性を示す上で、小中一貫教育、コミュニティ・スクールについて、取り組んでいかなければいけないものという位置づけのもと、委員の皆さまにこの項目についてご議論いただいたということがございます。

藤澤 委員

ありがとうございます。

佐々木委員

学校教育分野も社会教育分野の提言書についても、今まで市が進めてきた教育施策の方向性に沿う内容で、これからも進めてほしいという内容だと思って読んでおりました。あまりにも綺麗に沿っているので、例えば、議論の中で、ここの制度はここが足りないとか、この仕組みはこうした方がいいとか、訂正してほしいなどの、ご意見はなかったのでしょうか。

佐藤 課長

学校教育分野の市民検討委員会の中では、特に反対というのはありません。様々なお立場の方が委員になられておまして、学校現場における課題認識や地域の様々なボランティア団体がある中で、1人に負担が掛かっているが、どうなのかというご意見はご

ございました。

中小原課長

社会教育分野につきましても、具体的な制度に対する反対意見というのはございませんでした。現状の社会情勢や課題を踏まえた上でのご意見という形で提言書の中に反映させていただいております。

佐々木委員

例えば、新しくこういったことをしてはどうかという提案はなかったのでしょうか。

中野 部長

先ほど課長からお答えさせていただきましたが、いろいろな立場の方が委員として参加されておりますので、それぞれの視点からご意見をいただいております。新規の具体的な取り組みの提案というのは、学校教育分野については専門的な取り組みが多いので、個別の話は出づらかったということもあり、最近の話題等を踏まえてご議論いただいたと受け止めております。先ほどお話にありましたAIにつきましても、それぞれの委員の方々が仕事にどう使われているとか、今後重要になっていくだろうとか、ご本人の経験を踏まえてご議論いただきました。また、学校現場のお話については、働き方改革の部分で教職員の働き方について、今後の教育委員会や学校現場のあり方という観点からも活発にご議論いただいたと受け止めております。そして、次の計画の大きな柱となってくると思われます、小中一貫教育と併せて進めていきます、コミュニティ・スクールについて、共通認識のもとに今後地域一体となって進めていかなければならないことから、ご意見をいただいたところで

佐々木委員

ありがとうございます。

塩野谷委員

学校教育分野の重点項目はありますが、社会教育分野では第二期の計画を策定するにあたって、こういうことを重点にしたいとか、間違いなく10年以内にはキャッシュレス社会になると思いますが、新たな社会への対応などのご意見はありましたか。

中小原課長

重点項目としては、2番目の役割についても触れられておりますけれども、現状と社会変化を踏まえまして、技術の進歩や地域のつながりが薄れていく時代だからこそ、多様なニーズを踏まえた学習機会の充実を通じて人材を育て、学習の成果を自己実現だけでなく、地域の中でも活用していくということが今後重視されていくといったご意見をいただいておりますほか、人生100年時代を迎えますので、誰もが、どこでも、いつでも、何度でも、生涯学習の機会を得られるような環境づくりをしていくことが大切であるというご意見をいただいております。

塩野谷委員

次期計画を策定する時はどうなのですか。重点事項を設けるのかどうか、すべてに対応していくということになるのか。すべてをやろうとするとすべてが中途半端になる心配があります。

嶋崎教育長

あくまでも、まだ意見書をいただいた段階で、塩野谷委員がおつ

しゃったとおり、今後、どのような形で重点化を図っていくのか、生涯学習も学校教育も同じところに立ち、どのように連携を図っていくのか具体的に考えていきます。きれい過ぎるかもしれませんが、それぞれのお立場でのご意見をまとめていただいたと受け止めていただければと思っています。

塩野谷委員  
田中 委員

わかりました。

もう1点だけ質問したいと思います。10年くらい前からずっと言われている広報の関係です。35ページに、ホームページやメールマガジン、チラシや広報紙の配布と書かれております。教育懇談会の時にも出てくるかもしれませんが、どれだけ情報を発信しても、知らなかったと言われている。今回、この項目が出てきたということは、議論があったのではないかと思います。何か新しい提案があったら教えてください。

中小原課長

特に新しいご意見はございませんでしたけれども、インターネットだけではなく、高齢者の方はチラシで情報を知る方も多くいらっしゃいますので、今後も多様な媒体において発信していく必要があるとのご意見でございました。

田中 委員  
嶋崎教育長

ありがとうございます。

他になれば、質疑を終結し、本件を終了します。

日程第4、報告第28号、その他に入ります。

その他(1)帯広市議会12月定例会の報告についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

山下調整監

帯広市議会12月定例会における質疑のうち、私から学校教育部に関する質疑の概要についてご報告いたします。議案書45ページをお開きください。今回は一般質問20名中5名の議員から質問がございました。はじめに一般質問の稗貫秀次議員の質問中、適正規模の確保等に関する計画の後期に向けた取り組みについての質問につきましては、小規模化が進んでいる学校の保護者や地域住民への情報提供や意見交換を行う旨を答弁、小中一貫教育を展開するにあたり、一体型の施設を目指す考え方についての質問に対しましては、長期的な展望に立ち、小中一貫教育の熟度や適正配置の方向性とも併せて検討する旨を答弁しております。次に佐々木直美議員の質問中、外国籍の児童生徒数と学校での対応についての質問に対しましては、在籍数は小学校22名、中学校6名となっているほか、対応としては、加配教員や翻訳機の配置に加え、日本語指導が必要な場合には、特別な教育課程を編成し、指導を行っている旨を答弁しております。次に渡辺喜代美議員の質問中、今後の地域と学校のあり方についての見解の質問に対しましては、コミュニティ・スクールの取り組みにより、人づくりと地域づくりの好循環を生み出すなど、

学校と地域双方向の関係性がより強くなっていく旨を答弁、市立の南商業高等学校としての将来ビジョンについての質問に対しましては、地元経済界等のニーズを捉え、十勝・帯広の発展に貢献できる人材の育成を目指していくことが必要などの答弁をしております。次に熊木喬議員の質問中、出身小学校が学年内で少数派となる場合、いじめや不登校につながる懸念の認識についての質問に対しましては、スタートカリキュラムの作成や小・中学校が連携する中で不応が生じないように、思いを受け止めた指導に努める旨を答弁、教員の本来業務時間を確保するため、事務職員の配置の考えについての質問に対しましては、スクールサポートスタッフ配置事業を活用し、配置拡大に努める旨を答弁、小中一貫教育の推進にあたり、複数の中学校に進学する小学校の児童が一部存在していることの見解についての質問に対しましては、通学区域を直ちに見直すことは困難でありますことから、異なるエリアの中学校に進学する児童の引き継ぎを十分に行うことなどが必要である旨を答弁してございます。次に46ページ、杉野智美議員の質問中、次期総合計画において地域を活性化させるためにも学校を中心としたまちづくりを柱に据えるべきとの質問に対しましては、地域への愛着を育むためには、コミュニティ・スクールの導入など、地域ぐるみの教育環境づくりを展開してまいりたい旨を答弁、帯広市において少人数学級を検討すべきことの見解についての質問に対しましては、少人数学級はより質の高い教育効果が期待できるとの認識から、引き続き、国や北海道教育委員会に対し要望していく旨を答弁しております。学校教育部に関する報告は以上でございます。

中小原課長

続きまして、生涯学習部に関する質疑の概要についてご報告させていただきます。今回、一般質問では3名の議員から、議案審査特別委員会では1名の委員から質問がございました。はじめに45ページの一般質問では、稗貫秀次議員の質問中、本年の帯広市が関係した主なイベント・行事の総括につきましては、フードバレーとかちマラソンの改善点や課題に関し、今年度は給水所や手荷物預かり所を改善したほか、大会参加者へのおもてなし内容を充実したことで、参加者には概ね満足いただけたと考えていますが、ボランティアへの情報提供や連携の不足などの課題について、次回大会に向けて検討していきたいとの答弁をしております。次に渡辺喜代美議員の質問中、ともに学び地域のきずなを育むまちづくりにつきましては、まちづくり通信における学習活動の推進、芸術・文化の振興、スポーツの振興の評価に関しまして、図書等の貸出点数については、親子での利用が減少したことが主な要因と考えられますが、今後もボランティア団体などと連携しながら、サービスの充実に努めていくとの答弁をしております。また、芸術文化の鑑賞事業の入場者数

については、交通の利便性の向上などにより、鑑賞機会が広範化していることが主な要因と考えられるが、今後も演じる人、支える人、見る人たちが文化活動の担い手としてまちづくりを進めて行けるよう取り組みを進めていくとの答弁をしております。さらに、スポーツ大会等の参加者数や施設の利用者数につきましては、平成28年の台風被害による河川敷運動施設の休止が平成29年度まで続いたことが主な要因として考えられますが、今後も大会を応援する人や陰で大会を支えるボランティア等との輪を広げ、地域における絆づくりやまちづくりにつなげて行きたいとの答弁をしております。次に大和田三朗議員の質問中、おびひろ動物園の現状と将来像につきましては、おびひろ動物園は、市民の憩いや環境教育、野生動物の保護や調査研究の場としてご利用いただいておりますが、施設の老朽化や飼育動物の高齢化が進んでおりまして、将来像について、おびひろ動物園魅力アップ検討委員会において、議論しているとの答弁をしております。このほか46ページ、議案審査特別委員会では、記載のとおり1名の委員から質問があったところです。生涯学習部に関する報告は以上であります。

嶋崎教育長  
各委員  
嶋崎教育長

これから質疑に入ります。

ありません。

別になければ、質疑を終結し、本件を終了します。

その他(2)教育懇談会の概要報告についてを議題といたします。

中野 部長

平成30年度教育懇談会の開催結果の概要についてご報告いたします。議案書47ページになります。はじめに1. 開催日程・参加者数につきましては、10月31日水曜日から11月12日月曜日の期間中、教育委員の皆さんにもご出席いただき、コミュニティセンターやとかちプラザなど市内4ヵ所で開催し、参加者数は昨年度より約20名増の合計81名の参加をいただいたところでございます。次に2. 開催内容につきましては、第1部は前半に「ぐんぐん伸ばそう！子どもの体力と運動能力」、後半に「生涯スポーツの力で、帯広をもっと元気にパワフルに！」をテーマとして、教育長からそれぞれ説明をした上で懇談に入りました。また、第2部は教育全般について幅広く意見交換を行いました。次に3. 主な質問・意見等につきましては、第1部の前半では、学校の1校1実践の取り組み成果や子どもの外遊びの推進などについて、また、後半では、少年団や部活動の指導者育成や学校施設整備などについてご意見をいただきました。第2部については、教育運営に関するご意見をはじめ、教育環境に関することなど、教育について幅広くご意見をいただきました。次に4. アンケートの概要につきましては、79名の方からご提出をいただき、回収率は97.5%でございました。結果の概要につきましては、内容をご覧くださいますようお願いいたします。

最後に開催結果の周知につきましては、今後、いただいた主なご意見等と、それに対します回答等の概要をホームページに公開するとともに、コミュニティセンターなどの公共施設での掲示をし、周知を図ってまいりたいと考えてございます。報告は以上でございます。

嶋崎教育長  
各委員  
嶋崎教育長

これから質疑に入ります。

ありません。

別になければ、質疑を終結し、本件を終了します。

その他（３）今後の事業予定についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

山下調整監

学校教育部の１月の主な事業予定についてご説明いたします。議案書４９ページをご覧ください。教育研究所では、１月２３日に講師に帯広少年院、院長、青木治氏をお迎えし、生徒指導・教育相談研究協議会、心を育てる教育フォーラムの開催を予定しております。次に１月２８日に講師に学校マネジメントコンサルタント教育研究家の妹尾昌俊氏をお迎えして、第３回教員リーダー養成、ONE-UP研修会の開催を予定しております。以上です。

中小原課長

続きまして、生涯学習部に関する主な事業予定についてご説明させていただきます。はじめに５０ページ、生涯学習課では、帯広市民大学講座、馬と仲良くなる～馬の心をのぞいてみようなど、５講座をご覧くださいの日程で予定しております。次に５１ページ、文化課では、小学校低学年向けの親と子のわくわく音楽会を１月２７日に、文化ホールで予定しております。次に図書館では、人形劇のお楽しみステージを行う、冬休みこども図書館のつどいを１月１２日に予定しております。５２ページ、百年記念館では、北海道大学の谷本教授をお迎えし、博物館講座、北海道１５０年の光と影－開拓の捉え方を１月１９日に予定しております。次に５３ページ、動物園では、飼育員のガイド付きで観察する冬の裏側探検隊を１月１２日に予定しております。最後にスポーツ振興室では、日本初開催となります、２０１９IIHF女子U18アイスホッケー世界選手権を１月６日から１３日まで、帯広の森スポーツセンターとアイスアリーナで予定しております。生涯学習部に関する主な事業予定は以上でございます。

嶋崎教育長  
佐々木委員

これから質疑に入ります。

５２ページ、図書館の朝活ニュース・カフェまわしよみ新聞というのは、時々開催されていますけれど、対象は大人向けでしょうか。

前原 館長

対象は大人向けとなっております。気になった新聞の記事を持ち寄り、議論しながら１つの新聞にまとめていくというものです。

佐々木委員  
前原 館長

子どもを対象にした、このようなイベントは過去にありましたか。

直接ではないのですが、図書館の部屋を借りて、高校の新聞部がまわし読み新聞とか、本の感想を議論し合うということは行ってお

りました。

佐々木委員  
田中 委員

ありがとうございます。

1つだけ質問したいと思います。図書館のところで、市民文藝の話が出ていました。先日、発刊記念パーティーに参加させていただきました。毎年非常に素晴らしい文芸誌になっていると思いますが、なかなか買っていただけないという現実があると聞いております。ぜひ買っていただけるような取り組みをしていただければと思うのですが、市のホームページやツイッターやフェイスブック等にも掲載しているのかどうか。あるいは本屋さんにも平積みで置かれているはずですが、ポップなどでPRされているのかどうか、何かお考えがあれば教えてください。

前原 館長

皆さんに知っていただくために、今までもホームページ等でPRしてきておりますが、今年7月からSNSを使って、情報発信をしてきており、そちらでも頻繁に情報発信をしていきたいと考えております。

田中 委員  
佐々木委員

よろしくお願いします。

SNSというのは具体的には、ツイッターとかフェイスブックですか。

前原 館長  
佐々木委員  
前原 館長

はいそうです。

帯広市のアカウントですか。

フェイスブックとツイッターに図書館として、週2回くらい、図書館の使い方やコミセンの図書室の話などの発信をしております。

佐々木委員  
嶋崎教育長

ありがとうございます。

他になれば、質疑を終結し、本件を終了します。

その他（4）寄附受納についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

佐藤 課長

企画総務課の寄附についてご報告いたします。議案書55ページでございます。まず、地域ぐるみで子どもを応援する活動の推進のため、11月1日から12月14日の期間に計30件、合計68万円を子ども学校応援地域基金にご寄附いただきました。次に11月4日に帯広市立つつじが丘小学校開校20周年記念事業協賛会様より、つつじが丘小学校の教育環境の一層の充実を図るため、網戸や高圧洗浄機など、計24万3,156円相当のご寄附をいただきました。次に11月14日に十勝道路株式会社様より、教育環境の一層の充実を図るため、焼砂959袋165万1,720円相当のご寄附をいただきました。そのほか12月3日に帯広市立稲田小学校開校90周年記念事業協賛会様より、稲田小学校の教育環境の一層の充実を図るため、ステージ演台と扇風機、計36万2,880円相当のご寄附いただきました。企画総務課からは以上でございます。

村田 課長

学校教育課よりご報告いたします。議案書57ページから58ペ

ージでございます。東京都杉並区の〇〇様を始め、市外在住者の方から計17件、学校教育の振興のためのということで計105万1千円のご寄附をいただいております。

中小原課長

生涯学習課からご報告いたします。市内在住者の方から茶道具1点をとまちプラザの利用者の利便性の向上のためとしてご寄附いただいております。

渡邊 課長

文化課よりご報告いたします。真如苑様より現金20万円のご寄附をいただいております。

前原 館長

図書館からご報告いたします。札幌市の〇〇様を始め、市外在住者の方から10件、47万3千円、北海道社会保険労務士会十勝支部様から現金30万円、合計77万3千円を図書資料充実のためとしてご寄附いただいております。

柚原 園長

動物園からご報告いたします。60ページから66ページでございます。国際ソロプチミスト帯広様より、ベンチ2台、置戸町の〇〇様より、ヤギ2頭、国際ソロプチミスト帯広みどり様より、ベビーカー10台、傘60本をいただいております。また、現金として、市内市外在住者の方を合わせまして90件、総額176万8千円を動物園展示施設等の整備及び動物の購入のためとしてご寄附いただいております。

河瀬 主幹

スポーツ振興室よりご報告いたします。市外在住者の方6名の方から、スポーツ振興のためとして、現金19万9千円のご寄附をいただいております。

嶋崎教育長

これから質疑に入ります。

各 委 員

ありません。

嶋崎教育長

別になれば、質疑を終結し、本件を終了します。

事務局から、その他説明事項はありますか。

事 務 局

ございません。

嶋崎教育長

事務局からは、特にないようですが、各委員から他にご意見、ご質問等があれば、お受けいたします。

各 委 員

ありません。

嶋崎教育長

別になれば、ここで、会議の進め方についてお諮りいたします。

日程第5の案件については、帯広市教育委員会会議規則第16条第1項第6号により、非公開にしたいと存じます。

これにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

嶋崎教育長

ご異議なしと認め、そのとおりに取り扱いたします。

これより、会議を非公開といたします。

日程第5、議案第30号、平成30年度とまちジュニア文芸各賞の決定についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

草森 部長

報告第30号、平成30年度とまちジュニア文芸各賞の決定についてご説明いたします。議案書43ページでございます。本件は平成30年度とまちジュニア文芸賞、優秀賞及び佳作並びに推進奨励賞につきまして、とまちジュニア文芸に関する要綱第5条に基づき、とまちジュニア文芸誌編集委員会の意見をお聴きし決定いたしましたのでご報告するものです。なお、編集委員会の意見は次ページに掲載してございます。とまちジュニア文芸は、今年度で9回目となり、240作品、197名の応募がございました。とまちジュニア文芸賞につきまして、今回、該当作品はございません。優秀賞には、大樹町立大樹小学校5年、坪柚花さんの童話「子熊のなみだ～熊にだって理由があるんです」、もう1点は、芽室町立芽室西小学校3年、野村心鈴さんの詩「スクールバスをまつあいだ」に決定しました。佳作につきましては、ご覧の作品に決定いたしました。また、推進奨励賞につきましては、帯広市立帯広第四中学校に決定いたしました。なお、表彰式は来年2月24日11時より、図書館にて執り行う予定でございます。報告は以上であります。

嶋崎教育長  
各 委 員  
嶋崎教育長

これから質疑に入ります。

ありません。

別になければ、質疑を終結し、本件を終了します。

以上で本日の日程はすべて終わりました。

これをもちまして、平成30年第19回帯広市教育委員会会議を閉会いたします。